

1・東京国立博物館が実施した文化財レスキュー活動に関する報告

神庭 信幸 東京国立博物館 学芸研究部 保存修復課長

0. はじめに

東京国立博物館（以下、東博）が実施した活動は、1) 現地本部機能の支援、2) 具体的なレスキュー作業、3) レスキュー後の保管環境の整備と資料の状態調査、4) 作品の安定化処理、5) 現地における自立的計画立案に対する支援に大別される。

現地本部機能の支援とは、東京文化財研究所に設置された本部及び宮城県仙台市博物館に設置された現地本部に対するものである。東京本部については、活動全体についての見通しに対する検討等を補助した。それらの詳細については東京本部からの報告に譲り、ここでは宮城県現地本部における物資及び人員等の調整などに関する支援について報告する。

具体的なレスキュー作業では、被災施設からの作品の取り出しと、一時保管場所への輸送について報告する。東博は宮城県内で実施された作業に参加しており、その他の県で実施された作業には参加していない。これは、仙台市博物館に宮城県現地本部が実質的に設置されていた期間、現地本部からの要請に基づいて必要な人員を派遣し、その活動に従事していたためである。

レスキュー後の保管環境の整備と資料の状態調査とは、岩手県陸前高田市市内において実施されたレスキューによって、大量に運び出された作品の一時保管場所を整備するための支援である。陸前高田市立博物館、海と貝のミュージアム、市立図書館、埋蔵文化財整理室から救出された作品数は岩手県下最大であり、それらの多くが保管される施設の環境整備は極めて重要かつ深刻な課題であった。作品の腐敗の抑制、作業者の健康管理が必要であった。合わせて、作品の状態を確認し、保管環境の整備に必要な条件を確認した。

作品の安定化処理では、一時保管場所に運び込まれた作品は、大量の海水と海底へのドロなど、さまざまな汚染物質にまみれているため、それらの除去と作品の乾燥を図ることが、作品の腐敗などの材質劣化を抑制し、本格修理につなげることが可能であるとの認識から、脱塩処理、クリーニング、乾燥などの処理を実施した。

現地における自立的計画立案に対する支援は、平成24年度の作業を被災各県及び施設が自立的に行えるよう、安定化処置及び本格修理の内容検討、環境整備の検討、年度計画の立案、必要経費の積算などについての支援を実施した。

本部機能支援及び具体的なレスキュー作業に関しては宮城県において実施し、レスキュー後の保管環境の整備、作品の安定化処理、現地における自立的計画立案に対する支援は岩手県下において実施した。

1. 現地本部機能の支援

宮城県仙台市仙台市博物館に設置された現地本部の機能強化は、宮城県下におけるレスキュー作業の成否を決定する極めて重要なテーマであった。現地本部においてレスキュー作業の準備が計画的かつ円滑に行えるようになったのは、国立文化財機構全体から必要な人員が配置されるようになった5月下旬からである。現地本部が人員手配と物資管理、レスキュー先の事前準備を計画的に行うことの重要性が今回のケースによって認識された。機能が安定するまで2カ月近くを要したことになるが、より迅速な体制の確立が今後の課題である。今回、現地本部に駐在したのは東文研の職員を軸に、機構職員が加わるというものであったが、支援を希望する県教育委等からの派遣を受け入れることも念頭に置くべきであった。被災現地の教育委員会職員をサポートする体制が不十分であり、そのため被災現地の職員がレスキュー活動の対応のために多忙を極めるという結果をもたらしたことは事実である。

東博が現地本部のロジ機能を担当したのは以下の通りである。

- ・ 5月9日【和田】現地本部
仙台市博、宮城県文化財保護課、東文研、東博が参加して仙台市博物館連絡会を実施。
- ・ 5月10日【和田】現地本部
レスキューの手順を確認。
- ・ 5月25日【富坂】現地本部
今後の活動に必要なデータ収集、事業案件の洗い出し。
- ・ 5月26日【富坂】現地本部
資材調達・活動地の視察などのスケジュールリング。
- ・ 5月30日【猪熊】現地本部
熊野那智神社の搬出の打ち合わせ。今後の文化財レスキュー候補について打ち合わせ。
- ・ 5月31日【猪熊】現地本部

熊野那智神社搬出の打ち合わせ、準備。熊野那智神社の現地視察。

- ・ 6月4日【猪熊】東北歴史博物館
来週の日程の確認。今後のレスキュー現場の工程および資材などについて調整。
- ・ 6月5日【猪熊】東北歴史博物館
来週の現場について確認。今後のレスキュー作業について調整。
- ・ 6月6日【猪熊】現地本部
業務内容の確認。道具類の整理。今週の作業現場、作業内容などについて打ち合わせ。
- ・ 6月9日【塚本】現地本部
来週の主要な活動協議、鮎川収蔵庫の事前調査、気仙沼における水損屏風の報告。
- ・ 6月10日【塚本】現地本部
来週の日程の確認。今後のレスキュー現場の工程および資材などについて調整。
- ・ 6月11日【塚本】現地本部
奈良国立博物館よりの梱包物資の受け入れ、M家作業の書類作成。
- ・ 6月12日【塚本】現地本部
今週予定の調整、資材の整理。
- ・ 6月25日【富坂】現地本部
博物館内の現地本部の移転に着手。資材等の移動について終了。
- ・ 6月26日【富坂】現地本部
現地本部の移転は完了。無線ラン設置。
- ・ 6月27日【富坂】現地本部
レスキュー事業の進捗状況、行動計画、行動内容の確認。
- ・ 7月26日【富坂】現地本部
撤収に向けて現地本部の片付けを開始。
- ・ 7月27日【富坂】現地本部
凸版印刷株式会社仙台工場に搬入するため、奈文研チームが石巻文化センターの民具梱包。
- ・ 7月28日【富坂】現地本部
現地本部の撤収作業。
- ・ 7月29日【富坂】現地本部
現地本部から出動するレスキュー作業は終了。
- ・ 7月30日【富坂】現地本部
現地本部の撤収。8月第一週に民博チームによるレスキューを予定。

2. 具体的なレスキュー作業

全体として、石巻文化センターにおけるレスキュー活動に多

くの要員を割いた。収蔵品点数が十数万点と他の施設に比べて抜きん出て大きいことが最大の理由である。また、施設の近傍にあった製紙工場から流れ出した大量の紙ロールが施設内を埋め、同様に流れ込んだ瓦礫と共に、それらの撤去に多くの時間を費やす必要があった。石巻文化センターは委員会が取り組んだ最初の現場であり、当初十分な体制が整わないままのスタートであった。そのため、他所への展開がやや遅れた感がある。情報収集による被災状況の正確な把握から、能力に見合ったレスキュー作業の順位を計画する必要がある。

また、7月に入ってから実施された東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫のレスキュー作業は、気温の上昇と共に作業環境が悪化し、熱中症の危険性、ガラスなどによる怪我から破傷風の危険、悪臭が立ち込める等、極めて危険な環境での作業を強いられた。また、瓦礫の中にご遺体を発見するのではないかと、心配しながら従事する者もあった。通常業務で瓦礫撤去などに十分な経験のない博物館職員たちが、こうした危険性の高い業務に就く場合の体制について医師の配置あるいは作業後の心のケアなどを含め、本格的なレスキューを想定すればするほど、安全面の確保が今後の課題として浮かび上がる。

委員会が対象とする資料に自然史系資料が含まれているかどうかの判断に迷う場合があったと聞くと、委員会としては当初から明確な対象としていたことから、事前の周知を図ることが大切である。

- ・ 4月28日【神庭】石巻文化センター
1階に収蔵された大半の作品は冠水し、汚泥とパルプが付着していることを確認。
- ・ 5月7日【島谷】文化財レスキュー視察
宮城県下の南三陸町魚竜館、東松島市野蒜地区など、レスキュー現場を視察。
- ・ 5月11日【和田】石巻文化センター
ルールを作り、収蔵庫外へ搬出。梱包、状態確認、殺菌後、収蔵庫脇廊下へ仮置き。
- ・ 5月12日【和田】石巻文化センター
収蔵庫から搬出作業。
- ・ 5月17日【井上】石巻文化センター
民俗資料のレスキューが完了。同日、館内に仮保管。
- ・ 5月18日【井上】東松島市野蒜、女川町公民館、マリナル女川
女川町公民館は壊滅状態。周囲のガレキ撤去後でなければ立ち入りは不可能。
- ・ 5月19日【井上】石巻文化センター
石巻文化センターで仮保管中の民俗資料をサン・ファン館へ移送し、水洗。乾燥後、石巻文化センター2階へ一時保管する見込み。現地本部の機能強化にかかる予定。

- ・ 5月23日【富坂】石巻文化センター
学芸資料室の約1/3の堆積物を搬出。現場の困難さは予想以上にきつくかつ危険。情報共有が低い。
- ・ 5月24日【富坂】石巻文化センター
引き続き残土撤去・残土の中の資料選別。室内の異臭・腐臭は相当なもの。1時間ごとに休憩、マスク交換。
- ・ 5月26日【富坂】石巻文化センター
学芸資料室からの残土撤去終了、人骨資料採取終了、残土中の考古遺物選別1/3終了。
- ・ 6月1日【猪熊】熊野那智神社
壁面の懸仏を梱包。のぞきケースの懸仏を梱包。東北歴史博物館に搬入。
- ・ 6月2日【猪熊】東北歴史博物館
熊野那智神社から搬入した懸仏を点検。全128点および破片入小箱7箱を確認。熊野那智神社懸仏搬出。レスキューの作業終了。
- ・ 6月3日【猪熊】石巻文化センター
パルプとヘドロを清掃し、書類と遺物の搜索。15時すぎ、満潮以前に作業を終了。
- ・ 6月6日【銭谷】【金谷】文化財レスキュー視察
宮城県下のレスキュー現場を視察。
- ・ 6月7日【猪熊】石巻文化センター
民俗と考古の図面整理に従事する。1枚1枚をテンバコに入れて天日干し。
- ・ 6月8日【塚本】【白井】石巻文化センター
型紙を不織布、新聞紙、段ボールに梱包する作業を行う。
- ・ 6月9日【白井】東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫
収蔵庫付近に散乱している遺物の収集。
- ・ 6月10日【白井】亶理町M家
古文書類の搬出、悠里館に搬入。
- ・ 6月13日【塚本】O酒造会社
平福百穂山水図屏風を梱包し、リアスアーク美術館に搬入。
- ・ 6月14日【塚本】石巻文化センター
サン・ファン館から民具を搬入。
- ・ 6月28日【富坂】石巻市牡鹿民俗収蔵庫
民具救出。レスキュー先が遠距離になり、実動は4時間、後は移動時間。石巻市教委の了解のもと委員会だけで作業。
- ・ 6月29日【富坂】石巻市牡鹿ホエールランド
骨格標本・民具・ホルマリン漬け標本の回収。回収資料は仙台市博に留め置き、その後仙台市科学館に移送。イルカ一頭分の全身骨格標本の梱包が一番の懸案。
- ・ 7月2日【和田】東北歴史博物館
美術院による毘沙門天立像（海津見神社）の修理作業。
- ・ 7月3日【和田】門脇小学校保管民具
教室の窓ガラスをパール等で割り、搬出経路を確保。教室

内の民具とそれ以外の物を仕分けし、民具類を窓から搬出。サン・ファン館へ民具類の搬入。現場は危険度としては、かなり高い部類。完全防備で行い、気温のせいもあって体力の消耗が激しい。

- ・ 7月4日【和田】亶理町立郷土資料館
6月29日に救出した亶理町E家水損資料の処理。
- ・ 7月5日【和田】東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫
庫内に散乱するコンテナを回収。瓦礫とヘドロに埋まっている袋詰め資料の探索。かき出した泥の分別。ゴミや泥は現地付近に廃棄。庫内は湿気が高く、汗が噴き出す環境。ガラス片も多く、また、腐敗臭が充満している。長時間作業を続けると熱中症で頭痛が発生する。全身泥だらけになる。
- ・ 7月6日【和田】東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫
前日と同様の作業。
- ・ 7月7日【品川】東松島市野蒜地区埋蔵文化財収蔵庫
瓦礫と汚泥に埋まっている袋詰め資料を探索。汚泥内の土器・石器・骨角器・動物遺存体を探索して回収。民具および実測図等の回収。水損の酷い実測図等は後日ニチレイ冷凍庫へ移送。汚泥内にガラス片が多くまた腐敗臭が充満しているため、安全靴や長袖の上着、マスクの着用は必須。
- ・ 7月8日【品川】亶理町立郷土資料館
軸物および収納箱に付着したカビを除去し、員数および内容確認。資料を脱酸素剤とともに合成樹脂袋に封入。一次的な保管場所、整理作業場所、人員の恒常的な確保が急務。
- ・ 7月11日【田沢】石巻文化センター
第4収蔵庫内資料の選別、資料の台帳記録作成。第5収蔵庫内資料の選別、資料の台帳記録の作成。東北歴史博物館へ移送。
- ・ 7月12日【田沢】石巻文化センター
第5収蔵庫内および常設展示室内の資料の選別、資料の台帳記録作成。救出資料を東北歴史博物館へ移送。2階収蔵庫の資料を第4収蔵庫に仮保管。
- ・ 7月13日【田沢】亶理町E家土蔵
土蔵内資料の梱包、悠里館への移送。悠里館での選別・台帳記録。海水漬資料の移送と処置。非水損資料の角田市東根安らぎの家への移送収納。

3. レスキュー後の保管環境の整備と資料の状態調査

被災した陸前高田市立博物館、海と貝のミュージアム、埋蔵文化財収蔵庫から救出された資料は、一旦市内の米崎中学校に保管された後、最終的に旧生田小学校に搬入され、今日に至っ

ている。旧生出小学校は平成23年3月をもって閉校の予定であったため、資料の一時保管施設として利用されることになった。2階建ての校舎には足の踏み場もないほどの様々な種類の資料が搬入され、体育館にも同様に大量の民具が救援物資と一緒に当初保管された。気温が急に上昇する6月頃から校内は黴臭が立ち込め、文書や雑誌、木製民具には大量の黴が発生していた。また、鉄製の金属製品には赤錆が発生し、表面全体を覆っている状態であった。こうした環境下での作業によって、現地職員の中には黴に対するアレルギー反応を示す者もあった。

校内の正確な見取り図の作成によって、保管場所の検討や現状の確認を可能にすることが早急に必要作業であり、同時に校内全域に分散する資料の位置、数量、状態を出来るだけ正確に把握することがまず必要であった。そのため、当館とNPO法人文化財保存支援機構（NPO-JCP）、女子美術大学が共同で、作品の状態調査を行った。これらの作業に続き、館内の作業環境と保管環境を改善するために、腐朽が進行している大量の紙資料を冷凍庫に搬送して保管し、ゆとりのできた空間を用いてスチール棚を設置し資料を整理し、空間を移動しながら除菌清掃を各部屋について実施し、最終的に燻蒸可能な資料に対して燻蒸処置を行い、作業・収納環境の整備を実施した。

環境の整備は7月の見取り図作製から始まり、10月の燻蒸処置、11月には予定されたスチール棚の配置と資料の移動完了をもって、第一次の整備を終えた。

資料の状態調査は、旧生出小学校においてNPO-JCPおよび女子美術大学との協力のもとに、雑誌、拓本掛軸、鉄製民俗資料、高田歌舞伎装束など、岩手県立博物館において拓本掛軸、絵図、油彩画などについて実施した。

作業を通じて明らかになったことは、一時保管場所の確保、その後の保管環境の改善、資料の状態判断と固体識別などを一連の処置として迅速に行うことが、資料を朽損から守る上で極めて重要な点であることを認識できた。

- ・ 5月26日【神庭】岩手県立博物館
岩手県下の被災状況と、レスキュー活動について確認。水損資料の処置、必要資材の確認、今後の連絡・支援体制、被災施設からの一時避難の完了目途の確認。
- ・ 6月7日【伊藤】岩手県博、陸前高田市博、埋蔵文化財収蔵庫、海と貝のミュージアム、旧生出小
陸前高田市関係のレスキューの取り組みについて状況視察。県教委に対して救援委員会としての役割と機能を説明。
- ・ 7月1日【神庭】旧生出小、陸前高田市博、岩手県博
収蔵資料の詳細と一時避難の状況を聴取。岩手県博での安定化処理の状況確認。
- ・ 7年20日【神庭】【北川】旧生出小

東博・NPO-JCPチームによる掛軸、洋紙本、金属資料と考古遺物、建物の調査。

- ・ 7月21日【神庭】岩手県博
東博・NPO-JCPチームによる岩手県博における安定化処理の状況視察。
- ・ 8年10日【神庭】旧生出小
冷凍庫輸送に備えた紙資料箱詰。移送後の部屋割りの検討。テン箱の規格化の検討。
- ・ 8月11日【神庭】旧生出小
校内に設ける燻蒸スペースについて検討。
- ・ 8月24日【神庭】【米倉】遠野市立博物館
レスキュー展及び大槌町郷土資料館議会記録のクリーニング作業の視察。
- ・ 8月25日【神庭】【米倉】旧生出小
東博・女子美チームによる高田歌舞伎関係染織資料の調査。
- ・ 8月26日【神庭】【米倉】大船渡市災害ボランティアセンター、大船渡市Y・Sセンター、釜石市役所、旧釜石第一中学校、旧岩手県衛生研究所
写真、公文書、油彩画の安定化処理の状況視察。
- ・ 9年6日【神庭】旧生出小
東博・女子美チームによる高田歌舞伎関係染織資料の調査。
- ・ 9月7日【神庭】旧生出小、陸前高田市博、海と貝のミュージアム
東博・女子美チームによる高田歌舞伎関係染織資料の調査。被災現場視察。
- ・ 9月8日【伊藤】【米倉】旧生出小
東博・女子美チームによる高田歌舞伎関係染織資料の調査。
- ・ 9月9日【伊藤】【米倉】旧生出小
東博・女子美チームによる高田歌舞伎関係染織資料の調査。
- ・ 9月29日【神庭】旧生出小
9月26日から開始した除菌清掃の最終段階を確認。
- ・ 9月30日【神庭】旧生出小
除菌清掃の完了検収を実施。スチールケースの配置予定確認。拓本の掛軸300点の取り扱いについて協議。
- ・ 10月13日【神庭】【荒木】旧生出小
17台のスチール棚の納品・設置。資料の移動と配架。テント燻蒸および被覆燻蒸の準備開始。
- ・ 10月14日【神庭】【荒木】旧生出小
燻蒸業者による燻蒸開始確認。
- ・ 10月19日【神庭】旧生出小
燻蒸の排気および作業完了の確認、燻蒸業者からの引渡しを確認。
- ・ 10月20日【神庭】旧生出小
スチール棚の配置計画を策定。拓本掛軸300点の安定化処理の準備。藁製品の保管法について検討。

- ・ 11月8日【神庭】【和田】【鈴木】【沖本】旧生出小
旧生出小にて小宮浩氏、村木茂氏（文化財保護・芸術研究助成財団）に状況説明、仮市庁舎にて戸羽太市長、久保田崇副市長、金賢治教育委員会教育次長（陸前高田市）と面談。拓本掛軸の脱塩解体作業調査。
- ・ 11月9日【神庭】【和田】【鈴木】【沖本】旧生出小
菅野征一郎事務局長、佐藤副会長（生出地区コミュニティ推進協議会）と面談。拓本掛軸の脱塩解体作業調査、その他の軸物の保存状態調査。
- ・ 11月10日【神庭】【和田】【鈴木】【沖本】旧生出小
伊藤明彦議長（陸前高田市議会）と面談。拓本掛軸の脱塩解体作業調査。脱酸素剤封入袋への保管手順説明。校内の実測調査。
- ・ 11月30日【富坂】【和田】【鈴木】岩手県博
岩手県博が一時保管している被災した拓本掛軸の状態調査。
- ・ 12月1日【鈴木】岩手県博
被災資料の処置に関する講習の実施。

油彩画および書跡の安定化処理作業の実施。

- ・ 9月18日【池上】【三浦】岩手県旧衛生研究所
油彩画および書跡の安定化処理作業の実施。
- ・ 9月19日【池上】【三浦】岩手県旧衛生研究所
油彩画および書跡の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月2日【神庭】【鈴木】奥州埋文センター
奥州埋文センターにて鎌田氏（岩手県教委）、八木氏（NPO-JCP）と共に掛軸の脱塩処置に関する打ち合わせ。
- ・ 12月14日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月15日【鈴木】【和田】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月16日【鈴木】【和田】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月17日【鈴木】【和田】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月18日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月19日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月22日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月23日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月24日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月25日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月26日【神庭】【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月27日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 12月27日【神庭】旧生出小

4. 資料の安定化処理

陸前高田市立博物館から盛岡市の旧衛生研究所に搬入された油彩画、書跡、水彩画などに対し全国美術館会議が中心となってクリーニング作業が実施され、東博からも参加した。

陸前高田市立博物館で被災した拓本掛軸約400件は、拓本のもとになった石碑が津波によって流出したため、現在では拓本が第一次資料となったものが多い。安定化処置については、現状の掛軸装を保ったままで可能な処置を実施するのとどめるか、あるいは表装を除去して本紙に対して十分な脱塩乾燥を行うかの判断を所蔵者に求め、最終的には後者の方法で安定化処理を実施することとなった。旧生出小学校において脱塩の方法などについて試験的な解体洗浄を実施した後、奥州市埋蔵文化財調査センター（以下、奥州埋文センター）の調査室の一角を借用して安定化処理を実施した。技術者は東博職員およびNPO-JCP 会員によって構成した。

県立高田高校から搬出された油彩画と水彩など12件、および陸前高田市立図書館から救出された絵図9件は、東博において東博職員による安定化処置を実施した。東博で実施する油彩画等に関する安定化処理は現在も継続中である。

- ・ 9月15日【池上】岩手県旧衛生研究所
油彩画および書跡の安定化処理作業の実施。
- ・ 9月16日【池上】岩手県旧衛生研究所
油彩画および書跡の安定化処理作業の実施。
- ・ 9月17日【池上】【三浦】岩手県旧衛生研究所

冬季の旧生出小は一時閉鎖し、陸前高田市立米崎中学校理科室にて作業を継続することにする。雑誌・文書類の脱塩と乾燥を実施予定。

- ・ 1月18日【宋】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 1月19日【宋】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 1月20日【宋】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 1月20日【土屋】岩手県博
高田高校被災油彩画の保存状態調査・木枠解体作業。
- ・ 1月21日【鈴木】【宋】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 1月22日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 1月23日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 1月24日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 2月8日【神庭】【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 2月9日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 2月10日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 2月11日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 2月12日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 2月13日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 2月20日【鈴木】奥州埋文センター

東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。

- ・ 2月20日【冨坂】【宋】【池上】東博
岩手県博から県立高田高校の油彩画作品13点、額1点を東博に搬入。
- ・ 2月21日【鈴木】奥州埋文センター
東博・NPO-JCP チームによる拓本掛軸の安定化処理作業の実施。
- ・ 2月22日【土屋】【池上】【三浦】【鈴木】東博
県立高田高校の油彩画作品12件、および陸前高田市立図書館より預かりの絵画9件の安定化処理の実施。
- ・ 2月23日【土屋】【池上】【三浦】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 2月27日【土屋】【池上】【三浦】【藤瀬】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 2月28日【土屋】【池上】【三浦】【北川】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 2月29日【土屋】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 3月9日【土屋】【池上】【三浦】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 3月10日【土屋】【池上】【三浦】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 3月14日【池上】【三浦】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 3月15日【池上】【三浦】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 3月16日【池上】【三浦】【鈴木】【宋】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
陸前高田市立図書館の絵図の安定化処理の実施。
- ・ 3月17日【三浦】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 3月19日【土屋】【池上】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 3月21日【宋】東博
陸前高田市立図書館の絵図の安定化処理の実施。
- ・ 3月22日【宋】東博
陸前高田市立図書館の絵図の安定化処理の実施。
- ・ 3月23日【三浦】東京国立博物館
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 3月24日【池上】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
- ・ 3月26日【池上】【三浦】【鈴木】【宋】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。
陸前高田市立図書館の絵図の安定化処理の実施。

- ・ 3月27日【池上】東博
県立高田高校の油彩画作品の安定化処理の実施。

5. 現地における自立的保存計画立案に対する支援

平成24年度以降の作業計画に関して、岩手県立博物館赤沼氏を交えて、陸前高田市立博物館と検討した。現状では、陸前高田市所在の被災文化財の保存に関する技術的指導は県立博物館が行い、必要な資材や人員を県博と市博が協議し、県教委を通じて委員会に要請している。次年度以降の基本的な体制は現状を維持する方向で検討している。文化庁からの補助金「被災ミュージアム再興事業」に対する申請内容を、5カ年程度の年度計画に基づいて検討した。まずは資料の安定化処理と安定化処理終了資料の保管環境の整備を重点的に実施し、次にそこから本格修理を実施して保管し、最終的な博物館施設が完成するまで一時避難先で資料の保全を図ることとした。今後、より効果的な保全のための体制を随時検討していく予定である。

- ・ 2月22日【神庭】陸前高田市立米崎中学校理科室
現分析及び来年度の作業について協議。
- ・ 2月23日【神庭】陸前高田市立米崎中学校理科室
脱塩・クリーニング作業の検討。
- ・ 3月12日【神庭】陸前高田市立米崎中学校理科室
現分析及び来年度の作業について協議。
- ・ 3月13日【神庭】陸前高田市立米崎中学校理科室
脱塩・クリーニング作業の検討。

以上



10月14日 旧生出小学校で実施した燻蒸処理



12月8日 奥州埋文センターで実施した陸前高田市立博物館所蔵拓本の安定化処理



5月17日 石巻文化センターにて実施したレスキュー作業



平成24年2月23日 東博で実施した陸前高田高校所蔵油彩画のクリーニング処置